

総務文教委員会記録

令和元年5月23日(木)

10時00分～16時02分

全員協議会室

(委員) 野藤委員長、小川副委員長
沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員
(議長・委員外議員)
(総務文教委員会 所管管理職) 出席者なし
(事務局) 篠原書記

議題

(委員) 野藤委員長、小川副委員長
沖田委員、西川委員、永見委員、佐々木委員、道下委員、西田委員
(議長・委員外議員)
(総務文教委員会 所管管理職)
〔総務部〕 砂川総務部長、山根総務課長、馬場防災安全課長
〔地域政策部〕 岡田地域政策部長、岡橋政策企画課長、邊まちづくり推進課長
関連施設支援室長
〔金城支所〕 吉永支所長
〔旭支所〕 塚田支所長
〔弥栄支所〕 岩田支所長
〔三隅支所〕 田城支所長
〔教育委員会〕 ~~石本教育長~~、河上教育部長、湯浅教育総務課長、市原学校教育課長
村瀧学校教育課副参事、牛尾学力向上推進室長、村木生涯学習課長
外浦文化振興課長
〔消防本部〕 中村消防長、尾崎予防課長、本田警防課長
(事務局) 篠原書記

議題

1 執行部報告事項

- (1) 令和2年度国県重点要望事項について
- (2) 令和元年度浜田市総合防災訓練について
- (3) 平成30年度空き家バンク制度の利用状況について
- (4) 島根県立大学等の入学状況について
- (5) 敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況等について
- (6) 浜田市生活路線バス等の利用実績について
- (7) リハビリテーションカレッジ島根の学生確保に向けた取り組みについて
- (8) 平成30年度青少年サポートセンターの利用状況について
- (9) 平成30年度学力向上総合対策事業実績報告書
- (10) はまだっ子共育プロジェクト実践集について
- (11) 浜田市社会教育アドバイザーの委託及び平成30年度の活動について

- (12) 平成 30 年度浜田市立図書館全館の利用状況
- (13) (仮称)浜田歴史資料館検討会の検討状況について
- (14) 浜田市における住宅用火災警報器の設置状況について
- (15) 今年度の消防団車庫統合について
- (16) 島根県消防大会及び島根県消防操法大会の開催について
- (17) その他

(配布物)

- 令和元年度学校職員名簿
- 令和元年度園児・児童・生徒数一覧
- 令和元年度浜田市立公民館館長・主事名簿

2 政策討論会のテーマについて

3 その他

【以下詳細は会議録のとおり】

【会議録】

(開 議 10 時 00 分)

野藤委員長

ただいまから総務文教委員会を開催する。出席委員は8名で定足数に達している。本日教育長は出張のため欠席と聞いている。
会議に入る前に4月1日付人事異動で異動された職員のご挨拶をお願いします。

(異動した職員から挨拶)

弥栄支所長→三隅支所長→教育部長→消防長→関連施設支援室長→教育総務課長→学校教育課副参事→予防課長→会計管理者→監査委員事務局長→消防本部総務課長

野藤委員長

以上、異動された皆さんよろしく願います。

1 執行部報告事項

(1) 令和2年度国県重点要望事項について

野藤委員長

順次ご報告願う。防災安全課長。

防災安全課長

(以下、資料(1)をもとに説明)

野藤委員長

学校教育課長。

学校教育課長

(以下、資料(1)をもとに説明)

野藤委員長

説明が終わった。この件について質疑があるか。道下委員。

道下委員

教育について、校務の効率化と教職員の勤務時間システムの導入は、いつ頃から提案か。

学校教育課長

国から学校における働き方改革の緊急提言とのことで29年8月に示されているが、先般視察した廿日市市のように27年度くらいから校務支援システムを導入している所もある。島根県では松江市・出雲市が独自に入れていると伺っている。

道下委員

全国的にはどうなのか。ほとんどの自治体がやっているのか。

学校教育課長

県単位で入れている所もあるが、基本的には各自治体で対応している。

道下委員

財政状況によるのか。

学校教育課長

大阪市、北海道は全体で入れており、去年の結果も出ている。全国的な導入率はまだ半分程度と思われる。

道下委員

県の動きを待たず、市独自でやれば良いと思うが。

学校教育課長	サマーレビューにも挙げて導入に向けた協議をしたが、5年間に2億円程度の予算がかかると試算している。今は学校セキュリティの方が大事とのことで、セキュリティの強靱化を図りつつ校務支援システムの予算上の負担を減らしながら、何とか導入に向けて取り組みたい。
野藤委員長	佐々木委員。
佐々木委員	米軍機の騒音について。岩国基地の米軍機増加に伴い被害も増えたのではないかなと思うが、どのように把握しているか。また、政務官からの何かしらの所見があったのか。
防災安全課長	岩国基地の米軍機の訓練回数や目撃件数は、こちらが把握する限りではあまり変わっていないが、増える可能性はあるためこちらでも要望事項に入れている。国にも認識はあると理解している。 政務官のコメントは、要望書を渡した後の意見交換にて旭の目撃画像を見ていただいた。子供たちが怖がっていることは非常に問題であり、取り組みは大変重要なので積極的に支援していきたいというご意見を頂戴した。
佐々木委員	子供が怖がっていることは外務省も防衛省も以前から掌握されているはず。7、8年前に私が参議院会館に行って同じDVDを見せた時にも同じような回答があった。その時からあまり認識が進んでないのは残念。被害の大きさをしっかりアピールしてもらいたい。
野藤委員長	その他あるか。小川副委員長。
小川副委員長	補給基地の誘致を継続要望するとあったが、この要望が出され始めてから自衛隊を巡る情勢・認識は少しずつ変わってきている中、引き続き継続するのはどうかと疑問がある。最近では憲法に自衛隊を明記する話が出て、世論も賛否両論ある。憲法に明記するとなると性格や任務が変わってくることが懸念されるが、従来どおり経済効果を期待しての要望活動が果たして市民の理解を得られるのか。情勢変化に対する検討をされたのか。
総務部長	自衛隊については色々な考え方や捉え方がある。我々地方自治体は折角ある港を有効活用していただきたい。また、災害時の自衛隊支援は非常に大きい。これまでの浜田市の災害においても緊急支援を受けた。海田の師団長等と話すと、やはり自衛隊が地方

小川副委員長

に目を向けてくださっているのは、災害支援や住民が暮らしやすいようにという考えをいただいている。小川副委員長のご指摘は、国政レベルでの議論はされるが、私ども地方自治体は災害支援と港の有効活用とを要望する活動をさせていただいている。

おっしゃることはごもっともだと思う。自衛隊の災害支援は国民の皆からもかなり高い評価を受けているし、そこは理解している。折角の港を有効活用することも賛成だ。しかし自衛隊の性格そのものが少しずつ変わりつつあることを心配している。私と同じ不安を抱く市民に、今の説明を訴えても理解してもらえるだろうか。全く切り離しての説明では説得力に欠けるように思うが、今後も国政レベルの話と切り離して従来どおりの考え方で継続要望するのか。

総務部長

確かに国政の話と全く切り離すことにはならないと思う。社会情勢、国の考え方の影響はあると思うが、先ほどから申しているように、まず市として直面する一番重要な部分である、災害支援や経済活動を中心に。小川副委員長のおっしゃることも注視しながら、これまでのとおり要望活動に取り組んでいきたい。

野藤委員長

西川委員。

西川委員

校務支援システムについて確認したい。島根県内は松江市と出雲市が単独で導入済みとの話で、両市とも人口規模も大きくある程度の効果があると思う。

浜田市においては3市3町での検討を軸に進められているとのことだが、浜田市単独でのお考えはないのか。

学校教育課長

単独で導入した場合と、3市3町で導入した場合とで比較しながらというところもあるが、いかんせん単独でやるとかなりの予算がかかる。セキュリティとのセットも考えていかないといけない。財源確保の様子によって変わってくると思う。

教育部長

そもそも国が県レベルでやるよう通達しているのは、教員が県内を異動するから。共通システムを使っていればどの学校でも使えて先生の負担がない。そういうことから県内統一が補助の前提となっている。しかし松江・出雲が既に導入済みで県内統一がなかなか進まない状況もあるため、3市3町で取り組めないかを検討している。

西川委員	3市3町で足並みを揃える必要があって進み方が遅くなっている。松江・出雲と同じシステムを導入して追随すれば、県内が自ずと統一されると思うが。
学校教育課長	松江・出雲は同じだと聞いているが、全国的に大手と言われている業者ではないので、松江・出雲が入っているからといってそれが優れているかどうかは検討の余地があると思う。
西川委員	松江・出雲だけでかなりの学校数と教員数があると思う。そこに追随しないと県としての統一性が取れない。実質的にいずれはそのシステムに統合される流れになるのでは。
学校教育課長	そうかもしれないが、使い方や経費を考えて、他事例の実績等も見ながら検討していきたい。
野藤委員長	他にあるか。 (「なし」という声あり)

(2) 令和元年度浜田市総合防災訓練について

野藤委員長	防災安全課長。
防災安全課長	(以下、資料(2)をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。この件について質疑があるか。道下委員。
道下委員	何が2本立てか。
防災安全課長	1つは指揮本部訓練。いわゆる図上訓練。もう1つは地域の実動訓練。
道下委員	それは昨年と同じではないか。違うのか
防災安全課長	はい。
道下委員	昨年と違う点は。
防災安全課長	同じ訓練だが、取り組む項目内容を変える。情報を指揮本部が共有することで、災害時にどういう対応をするか、道が壊れたらどこが動くか等、指揮本部が全部掌握することによって災害状況への対応が可能になる。クロノロジーをやることによって、国交省、県、医療センターの方が来た時に事務処理ができる、各活動が遅滞なく進められるため、重要視するべきというご意見を頂戴している。
道下委員	やはり昨年と変わらない気がするが。
防災安全課長	指揮本部訓練は一度やって終わりではなく、何回か経験するこ

道下委員

とで職員の精度も本部の処理能力も上がると私は確信している。市長も昨年、こういう訓練は何度もやって練度を上げるべきとコメントされたので、このように企画させていただいた。

防災安全課長

昨年やってみての反省点も大したことないし、それを踏まえての今回の企画も大したことない。自主防災会の参加団体も昨年と全く変わらないのでは。

道下委員

呼びかけはさせてもらった。昨年の反省点として日付が遅くて周知が出来なかった点があったので、早めに周知させていただいた。昨日まで行政連絡員会議等があったのでこちらでも披露させていただいた。

野藤委員長

それは分かるが、自治防災組織の参加をもっと呼び掛けるべき。多くの防災組織からの情報をアップして本所で掌握するのだという主張があれば感心するのだが。

永見委員

永見委員。

防災安全課長

指揮本部の大きな変更点はあるか。

指揮本部の系統自体は定まっているので、それを変えての訓練はやらないが、処理作業については、前回はいくまでも 29 年 7 月の時系列に基づいて振り返る目的だったが、今回はそれ以外の項目を増やして、災害対応能力を高める訓練をしたいと思っている。

永見委員

浜田自治区における訓練参加地区を言われたが、自主防災が立ち上がっている地域が取り組まれるということか。

防災安全課長

概ねおっしゃるとおり。全自主防災組織には 2、3 月に訓練参加を呼び掛けた。

永見委員

他自治区は支所を中心に公民館単位等々で自主防災組織が立ち上がっているので各々訓練されると伺っているが、自主防災組織がない地域の住民にも参加していただくような工夫がないと、災害時対応は徹底できないのでは。全体的に防災訓練に取り組んでいただくよう、もう少し検討を進めていただきたい。

野藤委員長

佐々木委員。

佐々木委員

折角良い訓練をされるので多くの方に参加して欲しい。既存の自主防災組織がいくつあって、その内いくつの団体が訓練に参加されて、自主的に防災訓練を行っているのが何団体あるのか、ざ

	っくりでも分かれば教えて欲しい。 自主防災組織の参加団体数は 34 だったと思う。だいたい半数以上の組織が参加されると思う。ただし自主防災組織が立ち上がってない町内会については参加されにくい傾向にある。また、今回参加されなくても秋に消防訓練や避難訓練をやると聞いている。なるべく市の総合訓練には参加してもらいたいが、独自の年間計画を立てておられる所もある。
防災安全課長	
佐々木委員	訓練に参加されなくても自分たちで防災意識を持っている所はまだ良いが、大きな災害になればなるほど救助の手が届かないので、自分たちの地域で自分たちの生命・財産を守ることが大事になってくる。なるべく総合訓練へ参加してもらおうよう呼びかけに力を入れてもらいたいと思うが。
防災安全課長	本当の総合防災訓練を考えるとそれが必要だと思うので、今後働きかけはしっかり考えたい。
総務部長	ご指摘のとおりで、皆さんに意識を持って防災訓練にご参加いただくのが大事。29 年の災害を経て市民の皆さんも多少思いは備わっていると思う。昨年度の出前講座は 150 件を超える要請があった。浜田自治区の自主防災組織率は 50%を下回る状況なので、今年度から 3 ヶ年をかけて新たな防災まちづくり事業として、町内会の規約に防災活動を入れていただき、町内会活動として防災避難訓練をやっていただけるよう、柔らかに捉えていただくようにする。そのために必要な会合経費等を 1 団体につき 3 万円補助する事業を今年度から始めて、まず意識付けする。出前講座ができる職員を 1、2 人増やして、そういうサポートもしながら、防災訓練にも参加していただける努力をしていきたい。成果は出ないが一緒になって取り組んでいきたい。
野藤委員長	道下委員。
道下委員	いつ頃周知するのか。
防災安全課長	2 月広報でまず周知し、組織化されている自主防災会には 3 月頃に文書でご案内している。
道下委員	日にちを決めたらどうか。毎年決まった日付にすれば地域活動との兼ね合いもなくなり、参加が増えるのでは。
防災安全課長	ごもっともなご意見だと思う。イベントとの兼ね合いで毎年日

	付が変わることに対して悪いイメージをいただいた。また検討する。
野藤委員長	他にあるか。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	次の(3)は資料の訂正があるそうなので最後にする。

- (4) 島根県立大学等の入学状況について
- (5) 敬老乗車券交付事業及び運転免許自主返納支援事業の申請状況等について
- (6) 浜田市生活路線バス等の利用実績について

野藤委員長	3件まとめてご報告願う。まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	(以下、資料 (4) (5) (6) をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。質疑は休憩後に受けたい。10分間休憩とする。

〔 10時 58分 休憩 〕
〔 11時 10分 再開 〕

野藤委員長	会議を再開する。休憩前に引き続き(4)について委員から質疑はあるか。西川委員。
西川委員	浜田ビューティーカレッジの入学状況が、定員 60 人に対して今回 8 人だが、経営は成り立って今後も継続できるのか。
まちづくり推進課長	経営上は各課程 10 名程度が必要と伺っているが、この学校は大阪に本社のある理容系法人が運営されており、経営はグループ全体で対応されているとも伺っている。ただちに経営危機という状況は聞いていない。
西川委員	29 年度から浜田高校の通信制に入学して高校卒業資格が得られると書いてあり、特徴的な取り組みだと思う。浜田の特徴として P R 出来れば面白いかと思うのだが、所見があれば聞きたい。
まちづくり推進課長	入学生募集は市も協力したい。8 名のうち 5 名は浜田市からの入学で、そういった活動にも取り組んでおられる。
野藤委員長	その他にあるか。道下委員。
道下委員	市はどのような協力をするのか。
まちづくり推進課長	例えば、社会人からの入学制度の周知、東京・大阪・広島等で行われる U・I ターンフェアにカレッジさんも参加されているのでそうした場で一緒に P R していくというような協力も行って

	いる。
道下委員	29、30 が 11 名、6 名、31 が 8。その前の 27、28 はどうか。望ましいとされる各課程 10 名に満たなくて閉校するというところが出てくるのではないか。閉校ありきになればまずいと思うが。
まちづくり推進課長	平成 26 年度が 16 名、27 年度が 15 名、28 年度が 6 名。ここ数年は非常に少ない状況。また、今は不確定要素だが通信課程が 10 月入学なので、そこで追加がある可能性も一部ある。
道下委員	本社から閉校をにおわされたりしてないか。
まちづくり推進課長	閉校といった情報は市では把握していない。学校単体としては各課程とも 10 名確保が望ましいとお考えだが、経営については閉校という話は伺っていない。
野藤委員長	西川委員。
西川委員	学生に住む場所を優遇してあげる等して学生が来れば、おしゃれな学生が集まって賑やかになるのではないか。
まちづくり推進課長	浜田ビューティーカレッジでは学生の宿舎をお持ちなので、基本的にその宿舎に入居されている。入りきらない場合は市内のアパートを借りておられる方もいるが、そういった対応をされている。
野藤委員長	他にあるか。 (「なし」 という声あり)
野藤委員長	(5)について委員から質疑は。西川委員。
西川委員	全国的にも高齢ドライバーによる事故が多いので自主返納を促すのは非常に重要だと思うが、返納後のメンタルケア、生き甲斐に対するケア等は福祉部門と何か連携してされているか。
まちづくり推進課長	自主返納された方の移動手段確保は大事な点だと認識している。1 万 5,000 円分の敬老乗車券交付だけでは不十分だと思っている。予約型乗合タクシーや生活路線バスでも触れたが、今後の見直しにあたっては高齢者の方が移動しやすいようドア to ドアの交通施策も対応していかなばと思っているし、導入等にあたっては福祉の視点も必要になるので福祉部署との連携も深めながら制度構築していきたい。
西川委員	これまで福祉との連携がなさそう。免許がなくなって引きこもって認知が進む事例も考えられるので、市全体でケアを考えてい

	ただいた方が良いと思うが。
まちづくり推進課長	重要な視点だと思う。これまで福祉と連携した具体的な取り組みはないが、今後力を入れていきたい。
野藤委員長	他にあるか。佐々木委員。
佐々木委員	敬老乗車券について。旭の交付率が少ないとの説明があった。タクシーだと出費が高くなるので交付冊数も多いのかと思った。上限一杯に買われてタクシーを活用するのなら統計の数字は分かるが、タクシー利用が圧倒的に多いにも関わらず冊数がそれほど多くないのは、何か原因があるのか。
まちづくり推進課長	平均は確かに 7 冊程度だが、購入者のうち上限まで購入されているのが約半数近くおられる。タクシーを利用される方は上限まで買われる、反面、バスや時々しか使わないから 1、2 冊しか買わないという方もおられる。
佐々木委員	平均数だけではそこまで読み取れないことが分かった。タクシー利用は重要な点だと思うので、そういうデータも付けられるなら付けていただくとわかり易いのでよろしくお願いします。
まちづくり推進課長	今後の分析の参考になると思うので、タクシー利用状況も今後は整理していきたい。
野藤委員長	他にあるか。
	(「なし」 という声あり)
野藤委員長	(6)について委員から質疑はあるか。西川委員。
西川委員	予約型乗合タクシーについて、浜田自治区の三階一長見線の終点を浜田医療センターから殿町まで延長したにも関わらず、利用が 70.3%と 3 割くらい減っているが原因を教えてください。
まちづくり推進課長	30 年度の見直しで利便性向上のための延長をさせていただいたが、結果的に利用者数が減っている。この利用者数は年間延べ人数のカウントであり、例えば施設に入られたり亡くなられたりした場合は数字に大きく影響する。年間通じて週 2 回利用すると約 100 人分のカウントになるが、その方が不在になるとマイナス 100 人になる。路線見直しに伴うというより、特定個人の利用形態の影響が、特に浜田の場合は大きかったのかと思う。乗務員の聞き取り調査でもそのような話を伺ったところだ。
西川委員	公共バス路線の利用者が少なくなると、特に中山間地の生活に

	支障をきたす。公共交通再編でドア to ドアのタクシー利用が検討され始めているが、そうなるとバス利用が益々減る。例えばドア to バス停など、公共路線と共存するような手法のご所見は。
まちづくり推進課長	地域によってはご提案のあった手法も考えられるかと思うが、全体的にはバス移動が困難な高齢者が増えている状況もあるので、見直し手法としては民間含めてバス路線廃止とセットでタクシー助成なり、新たな支援策の検討も必要かと考えている。
西川委員	タクシーの利便性があって融通もきくが、輸送コストがかかってくるので、それも含めての今後の検討をお願いします。
野藤委員長	他にあるか。
	(「なし」という声あり)

(7) リハビリテーションカレッジ島根の学生確保に向けた取り組みについて

野藤委員長	関連施設支援室長。
関連施設支援室長	(以下、資料 (7) をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。この件について質疑はあるか。佐々木委員。
佐々木委員	学生確保の新たな対策を初めて聞いた。確かにこの理屈でいくと採算が取れる。恐らく他の学校でも同様の認識を持って取り組んでいると懸念するが、その辺の状況把握はされているか。
関連施設支援室長	全国でも同様の取り組みをしている所はあるのではないかと確かに思うが、情報は掴んでない。ただ、外国人が増えていく状況は間違いない。他校との競争は予想される。
佐々木委員	これは学生確保のみならず観光面や地域の経済にも大きな影響を与えることが想定される。是非上手く事を運んで欲しい。
関連施設支援室長	地域貢献に果たす割合が非常に大きいと思っているので、是非皆さん応援して欲しい。
野藤委員長	その他あるか。道下委員。
道下委員	定住に繋げることはあまり考えていないのか。
関連施設支援室長	定住は私の守備範囲ではないが、学生なので4年間は住むということはどう捉えるか。人口減少が進む地域にとって若者が来ること自体が非常に大きい。地域の活力において不可欠な要素で、学生がいることそのものに意味があると考えている。
道下委員	中国からの研修生は国も取り組んでいるのだから、国からの財

	政面補助等は全くないのか。
関連施設支援室長	大学ほどではないが高等教育について国の補助メニューはある。ただ、経営に関わるような抜本的な補助ではなく何百万円程度であり、学生確保に繋がる性格のものではない。
野藤委員長	西田委員。
西田委員	この春にちょうど4年滞在した中国人留学生が卒業したが、その方は教育文化国際交流財団とは無関係か。
関連施設支援室長	これまでの方は関係なく、日本語学校に半年以上おられて専門学校に行ける資格を取られた方が対象になる。
西田委員	これから外国人留学生が増えて、上手くいけばこの地域に定住していただけたらと望む。 もう1点、日本人学生は現在大体50名程度で推移しているが、10名増が沖縄、首都圏等の強化ということだ。20年くらい前に開校した当初は北海道から沖縄まで、沖縄県からも結構な人数の学生さんが来ておられたが、今は県内、石見地域中心になっている。特に強化される具体的内容とはどんなことか。
まちづくり推進課長	リハビリテーションカレッジの入学について、国内からの学生確保の上乗せは厳しいと学校側も見ており、外国からの留学生・研修生の受入れを行う流れになっている。沖縄や九州地方、特に沖縄はリハビリ系の学校がまだ少ないため、浜田市にも来ていただける需要があるので、積極的にPR活動をされており、その成果が今年の沖縄県からの入学6名の実績になっていると聞いている。
西田委員	学校卒業生が全国各地に就職されて、沖縄県内の病院に就職した出身者もいる。卒業生の会を作っておられて、卒業後も学校や卒業生同士の連携も相当あるので、そういった情報をしっかり伝達して、卒業生を含めて強化して欲しい。
まちづくり推進課長	卒業生のネットワーク等も活用して、学校と一緒に対策に取り組んでいきたい。
野藤委員長	その他は。
	(「なし」という声あり)

(8) 平成30年度青少年サポートセンターの利用状況について

野藤委員長	学校教育課副参事。
学校教育課副参事	(以下、資料 (8) をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。質疑があるか。道下委員。
道下委員	現時点の課題は何か、その課題にどう取り組もうとしているか。
学校教育課副参事	課題としては、相談件数は増えているが該当者は変わらない状況。不登校や引きこもりの方と接触するにあたり、電話や訪問をしているが、当人に会うことが難しい。地道に丁寧な関わりをしていくしかないのかなと。継続した関わりを持つことが大切な課題だと思っている。また、対応するにあたり専門的な資格が必要な方に対応していくことが必要だ。専門性の確保という意味で人材育成が課題ではないかと考えている。
野藤委員長	その他あるか。佐々木委員。
佐々木委員	相談件数は増えているが対象人数は昨年並みと言われた。ということは複数の相談をされる方が増えたということか。
学校教育課副参事	ご指摘のとおり、お一方に対する関わりや相談を丁寧にさせていただいている。
佐々木委員	専門性の確保が今後の課題と言われたが、サポートセンターにとって難しいハードルではないかと思う。だからこそ専門的な機関との連携が重要になってくるのだと思っていたが、人材育成の方針を進めたい思いがあるのか。
学校教育課副参事	確かにハードルが高い。専門性確保は相談員を確保するにあたり、元養護教諭、元保健師、元警察職員等に対応していただいているが、長年勤めていただいているため年齢も上がってきている。継続するためには新しい方を探す必要がある。
野藤委員長	その他。 (「なし」という声あり)

(9) 平成 30 年度学力向上総合対策事業実績報告書

野藤委員長	学力向上推進室長。
学力向上推進室長	(以下、資料 (9) をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。委員から質疑はあるか。道下委員。
道下委員	8 月の全国学力テストの公表は秋になるのか。
学力向上推進室長	7 月に結果が返って来て 8 月あたりに公表になる。

道下委員	公表を期待している。
野藤委員長	その他にあるか。西川委員。
西川委員	家庭学習ノートコンテストの内容を見ると、各学級から 1 つ、各学校代表を出して、優秀賞・優良賞という形になっているが、この取り組みが子供の家庭学習を進めるものになっているか。各学校によって取り組み方が違うと思うが、認識されているか。
学力向上推進室長	コンクール出品数は限られているが、子供達の日々のノートは全職員で見えて選んでいる。どうしても同じ子になってしまいがちだが、意欲を持たせるために違う子を出すようにしている。このコンテストと共に、各中学校ブロックで良いノートを回覧しているので、ほぼ中学校区別で推進できていると考えているので、今年度はノートコンテストは終了した。
西川委員	学習プリント配信システムの活用について。学校の負担の軽減と学力向上と、どちらに重きを置かれているのか。学力向上に結び付いているのか。
学力向上推進室長	印刷の負担軽減になっている。そのことよりも、これは学力向上に結び付いている。授業最後の振り返りで使ったり、家庭学習プリントとして使ったり、年々需要が増えているし学力向上に有効だと思う。
西川委員	協調学習は素晴らしい取り組みだと思っている。東大の研究に協力するのは良いが、実際浜田市の中学生の学力向上のために横に広げていくべきだと思う。それについてのスケジュールや計画があったら教えて欲しい。
学力向上推進室長	基本的には授業を見てもらって広げていくことになるので、公開授業をきちんとやっていく。全国大会を行うということで、まずは中学校の授業改善を、協調学習を取り入れてもらってと考えている。
西川委員	コンテストや研究も良いが、実質的に子供の学力が上がるような取り組みをしていただきたい。
野藤委員長	その他あるか。佐々木委員。
佐々木委員	私も昨年旭中を拝見して感動した。協調学習と学校図書館活用教育、I T、この 3 つを導入されて子供の能力、感性、問題解決能力等を向上させる取り組みだと思う。学力までは結び付かない

	所もあると思うが、それ以外で非常に大きな成果が出ているのではと思う。子供の発表の場を見てそう感じた。 1 つ気になるのは、図書館司書さんがこの度初めて異動になっている。これまで 10 年くらい同じ司書さんがこの教育を作って来られた中心的な方だと思うが、異動の理由があるのか。
学力向上推進室長	これといった理由は把握していないが、学校現場は変化が必要だと思う。あまり長く居続けるとマンネリ化するので異動は必要だと思っている。
佐々木委員	色んな理由でそこに手が付けられなくて、やっと軌道にのってそこを考えられるようになったということだと思う。今回 10 月だった、東大コレフ授業を見に来るとのことで、他に発信する大きな材料になるのだろうと思う。実際関わる先生方の評価や認識が非常に大事になってくると思う。その辺の感覚はどのように捉えているか。
学力向上推進室長	最初から上手くいくとは限らないので、まずはやってみる。大事なのは管理者の後押し。今年度は午前中に管理職を全員集めて、校長、教頭の認識を深めることが大事だと思っている。
野藤委員長	その他あるか。西川委員。
西川委員	学力向上推進室だよりは、どこに配布しているのか。初めて見た。できれば総務文教委員会委員のレターボックスに入れてもらいたい。
野藤委員長	大丈夫か。よろしくお願いします。その他。 （ 「なし」という声あり ） 休憩に入る。再開は午後 1 時とする。

〔 12 時 05 分 休憩 〕

〔 12 時 58 分 再開 〕

野藤委員長	午前中に引き続いて、会議を再開する。 (10) はまだっ子共育プロジェクト実践集について (11) 浜田市社会教育アドバイザーの委託及び平成 30 年度の活動について (12) 平成 30 年度浜田市立図書館全館の利用状況
生涯学習課長	の 3 件一括でご報告いただく。生涯学習課長。 （ 以下、資料（10）（11）（12）をもとに説明 ）

野藤委員長	説明が終わった。(10)について委員から質疑はあるか。 (「なし」という声あり)
野藤委員長	(11)について質疑はあるか。西川委員。
西川委員	最後に提言を作成しておられるようだが、折角なので披歴して いただきたいが計画はないのか。
生涯学習課長	検討させていただきたい。
野藤委員長	その他。 (「なし」という声あり)
野藤委員長	(12)について質疑は。 (「なし」という声あり)

(13) (仮称)浜田歴史資料館検討会の検討状況について

野藤委員長	文化振興課長。
文化振興課長	(以下、資料(13)をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。委員から質疑あるか。佐々木委員。
佐々木委員	この委員会設置の必要性を含めて検討するとのことだったが、 まず設置がどうだったかから議論しないと、案の話にいかないの ではないかと思うがその辺の考え方を願います。
文化振興課長	設置するのがどうか判断をしようにもたたき台がないと判断し づらいと考えている。やはり何かしらの考え等が必要ではないか ということから提示をしている。
野藤委員長	第1回目の時に建設すべきとの総意があったと説明された気がするが。
教育部長	今日は資料を付けていなかったが、元々の設置要綱に、今回検討 会を設置したのが整備の方向性。するならどうするかを大前提 に始めさせていただいた。前回のアンケートは市民の意見を受け て、建築費も高いということがあったので、前回の案の縮小版、 経費削減案。それと提案があった図書館の敷地ではどうか、美術 館との複合化はどうかという提案があったので、それを受けた案 を提示させていただく形で進めている。前回と同じ案でも物価高 騰により、相当上がっているので、比較対象を作らせてもらって いる。今度現場を実際に見ていただく中で、更に古い資料も可能 なら見ていただこうと思うが、現在の保存・展示状況を見ていた

だいたいで、浜田市の有効な文化財をどう保存すべきかの判断をいただければと思っている。まだ賛否両論の中で実際に整備する方向で固まった段階ではない。皆さんからいただいている意見への回答も含めて3回検討させていただくことにしている。

佐々木委員

必要かどうかとも同時並行するという説明だったが、議論が重複してすっきりしない流れになってくるような気がするが、執行部に委ねる。今回の委員は前回の正副会長と同じ人で、前回の検討が引き継がれたような中で進められていくので安心。

浜田歴史資料館というネーミングに引かかる人が多いのではと思う。浜田城の資料館も設置に向けて進んでいるし、郷土資料館を改修しないといけないというのは、多くの皆さんが共有する概念だと思う。郷土資料館という名目で進める考えはないのか。そうするとハードルもかなり下がってくると思うのだからいいが。

教育部長

今は仮称という表現を使わせていただいているが、委員からも名称について意見が出ている。ご提案の件は内部協議したい。

野藤委員長

その他質疑があるか。西田委員。

西田委員

5年前に今のようなスタートだったらもう少し違っていたと思う。当初は11億2,800万円で場所は御便殿の横で、ランニングコストが5千数百万円かかる、これ以上は譲れないということだった。瀬戸ヶ島の件とこの件は執行部が大変苦労しているのが伝わってくる。議会が納得しない、議会が過半数賛成すればすぐに動くが、反対が多いから何とか賛成を得るべく試行錯誤を続けたが半分諦めてここになっている、これから本格的スタートになる気がしている。浜田のお宝を収蔵・保存するために必要な施設というのは分かる。ではこれから先、残していくべきお宝はどれだけあるのか、浜田で残すべき歴史的資料は一体何か、それをしっかり検証した上で事業費やスペース規模を考えないといけない。まずそちらが先ではないか。旧那賀郡の歴史資料も皆集めたら、とても11億2,800万円の建物では収まらない、本当はもっと大きなものが欲しい、という言い方があったと思う。しかしどこまでがお宝なのか。本当に必要なもの、本当に残すべきものは何かをしっかりと検証から考えた方が良く思っている。決して反対しているわけではないが、足元から一歩ずつやるのが大事。

教育部長

他自治区の資料館等々も数字合わせで、統廃合するからこうだというのは私は賛同できない。各地域には各地域のお宝があって、各自治区の資料館にはその土地のお宝が整備されてきた。建てる場合には過去の色んな経験を糧にして慎重に考えていただきたいが。

委員の中にも行革の委員を兼ねた方もいる。面積の問題ではないと言われる方もいる。また自治区代表も入っている。その地域にあるからお宝なのだという言い方をされる委員もおられる。確かに集めれば良いではなく、そこにあるからこそお宝だと言われるので、それは配慮させていただきたい。ただ、全体の中で全てが残るかは検討が必要だと思う。展示するものと、収蔵だけすれば良いものなら集約できる。そういったことも含めて検討したい。

歴史的なお宝を保存するのが1つの大きな目的なので、展示スペース420は変えていない。やはりこれは必要だという判断。収蔵庫としても最低300平米要るだろうと。そこだけは同一にさせていただいている。その中で場所や運営方法による検討はさせていただく。委員会としての一定の方針は含まれていると思うのでそうした中でしっかり検討していきたい。委員からもしっかり意見をいただきたい。

野藤委員長

その他。道下委員。

道下委員

3案に遜色はない。事業費も大きく違わない。その中から選べと言われても違和感を覚えるし不愉快。浜田自治区のものだけをとという考え方もあるのではないかな。

教育部長

今回の3案は前回提示した中で高いと指摘された事業費をできるだけ削減したものと、市が持っている施設と一緒にできないかということで図書館とこども美術館の提案があったので、この3つから選べということではない。この他にも良い案があれば検討させていただくし、提案いただきたい。

既存資料館は既に狭くて展示も十分できないので、その建て替えとしても面積拡大は必要と想定している。

道下委員

市民からは歴史資料館は必要無いという意見がかなり出ている。賛成意見も書いてあるが7、8割は反対している。それでありながら3案が出て、他に選択肢がないように思っている市民が

教育部長	多い。一般の浜田市民の意見がおざなりになっているのが不安だ。 どうしても報道は見出しでアピールするためにパッと出るが、中身を読んでいただくと提案のことも書いてある。しかし市民の方は現場の説明を聞いてないので、市が3案を提案することで建設ありきと受け取った可能性がある。市民の声については、委員さんの周りでは反対意見が多いかもしれないが、賛成の声が多い地域もある。条件付き賛成の声も踏まえた上で提案させていただいた。
道下委員	資料館という言葉にアレルギーがある。もっとたたいてより良い方法をお願いします。
教育部長	最初の段階で提案すべきものが5年遅れたことは事務局としてしっかり反省して、丁寧な説明をさせていただこうと思っている。引き続きご支援をお願いします。

(14) 浜田市における住宅用火災警報器の設置状況について

野藤委員長	予防課長。
予防課長	(以下、資料(14)をもとに説明)
野藤委員長	ただいまの説明について質疑はあるか。道下委員。
道下委員	設置率合計が浜田全体で8割に満たない。全国では、県ではどうか。
予防課長	設置率は平成30年6月1日時点で、全国が81.6%、島根県が82.9%となっている。
道下委員	隣の率は。
予防課長	条例適合率のこと。平成30年6月1日時点で、全国が66.5%。島根県は65.6%となっている。
道下委員	今後も普及を図るとのことだが、どのような方法でやるのか。
予防課長	今週行政連絡員会議があつてこのことを述べさせていただいた。高齢者のお宅もあり取り付けが不便だと聞いた。消防団が回りきれてない所もあるので、今後も継続して消防団にもご協力いただきながら、条例適合率に適合できるよう今後も指導を続けたい。
野藤委員長	その他。西川委員。
西川委員	このペーパーだけだと何が問題点で、我々が何を判断して良い

	のか分からない。判断材料になり得るような情報提供をしていた だけると助かる。
予防課長	今後そのような情報提供をする。

(15) 今年度の消防団車庫統合について

(16) 島根県消防大会及び島根県消防操法大会の開催について

野藤委員長	2 件まとめてご報告願う。警防課長。
警防課長	(以下、資料 (15) (16) をもとに説明)
野藤委員長	説明をいただいた。(15)について委員から質疑はあるか。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	(16)について委員から質疑はあるか。
	(「なし」という声あり)
野藤委員長	暫時休憩とする。10 分間。

[14 時 06 分 休憩]

[14 時 14 分 再開]

(3) 平成 30 年度空き家バンク制度の利用状況について

野藤委員長	会議を再開する。資料の訂正があるとのことで最後に回した(3) について、ご報告をお願いする。政策企画課長。
政策企画課長	(以下、資料 (3) をもとに説明)
野藤委員長	説明が終わった。この件について質疑はあるか。西田委員。
西田委員	入居済み物件数が全体で 53 軒。そのうちU・I ターン者の入 居は 13 世帯か。
政策企画課長	そのとおり。
西田委員	地方の空き家をリニューアルして、本来はU・I ターン者に入 居していただくのが一番理想形だったと思う。最近に登録物件数 が増えてきて、入居済み件数の中でもU・I ターン者の割合が非 常に少ない気がしている。地域内や圏域の生活不便地域から少し 良くなった物件を探して、近い地域から近い地域へ移転する方が 多いのではないかと思うが、その辺はいかがだろうか。
政策企画課長	53 件のうちU・I ターンの方は 13 世帯と少し少なめ。ご指摘 のとおり近年は市内移動が増えている。これは空き家登録物件が 増えている要因。選択肢が増えることで登録物件が増えて入居者

	も増えるという好循環が生まれる。U・Iターンはまだこれから伸びしろはあると思うが、その方々にとってもこの制度が魅力的なものになりつつあることは間違いないと思っている。
西田委員	U・Iターン者、入って来られる方の増の意識と両面を持ちながら、更に事業が活発になれば良い。
野藤委員長	他に。道下委員。
道下委員	報告会の中で地域を活用した空き家バンクのピックアップを取入れたらという意見があったが、そういうことをしているのか。
政策企画課長	地域ぐるみで積極的に空き家バンクへの登録を進めている地域があることは承知している。他の地域でも自治会の方をお願いして、旭自治区だが登録物件に対して報奨金をお支払いして実際に入った方がおられたら更に報奨金をお支払いする制度も行っている。そのような取り組みには積極的に支援していきたい。
道下委員	地域の物件は地域の人が一番知っているのだから、情報提供の呼びかけをすればもっと事業が進むと思う。
政策企画課長	他自治区でも自治会に物件の掘り起こしをお願いし、候補となる物件については空き家バンクへの登録を促したりして、地道に連携しながら取り組んでいる実態もある。しかしこれはすぐには成果が出にくい。引き続き粘り強く取り組んでいく必要がある。
道下委員	すぐに成果が出にくいとはどういうことか。
政策企画課長	空き家バンクの近年の特徴は、独居で住んでおられた方が亡くなり親族に相続されるが、なかなかすぐに処分をされない。数年置いてからされる事例もあるようだ。

(17) その他
(配布物)

- 令和元年度学校職員名簿
- 令和元年度園児・児童・生徒数一覧
- 令和元年度浜田市立公民館館長・主事名簿

野藤委員長	お手元のタブレットに配布資料データがあるのでご確認願う。 執行部から他になにかあるか。教育総務課長。
教育総務課長	緊急を要した関係で4月22日に各委員へ文書の配布によってお知らせした、旭学校給食センターのボイラー故障に伴う対応について、口頭で報告させていただく。

	お湯の量が少なく異常に熱くなる事象が発生した。業者による確認の結果、いつ使用不可能になるか分からない状況だったことから緊急取り換え工事を行うこととした。工事期間は 5 月 14 日（火）から 16 日（木）までの 3 日間を予定し、予定通り設置完了している。17 日（金）には試験的にボイラー運転も行い、正常に稼働することを確認している。また旭小・旭中の給食提供については、食材準備・発注のことを踏まえて連休明けから 5 月 17 日（金）までの間、浜田給食センターからの給食提供で対応している。浜田学校給食センターから配送した給食の感想について、児童生徒全員からのアンケート等を行っていないが、一部からは美味しかったという感想をいただいた。 ボイラー不具合発生から取り換え工事完了まで、給食を止めることなく無事に提供できたので報告させていただく。
野藤委員長	この件について委員から質疑はあるか。
西川委員	緊急とのことだが、5 月 16 日に起こったのか。
教育総務課長	各議員には 4 月 22 日にレターケースに配布させていただいた。本日は資料を準備していない。
野藤委員長	その他。
	（ 「なし」という声あり ）
野藤委員長	執行部からその他あれば。まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	石見交通バスのダイヤ改正の概要と対応についてご説明させていただく。お手元の資料をご覧ください。
	（ 以下、資料をもとに説明 ）
学校教育課長	（ 以下、資料をもとに説明 ）
野藤委員長	説明をいただいた。このことについて何か質疑はあるか。沖田委員。
沖田委員	国府小学校と相乗りの 6 時半頃に東中学校に着くようにとおっしゃったが、学校側と生徒さんの動きを把握した上での時間か。
学校教育課長	学校に確認して、時間は 6 時半とは決めていないが、6 時半頃には着けるようにいくと。今は既存のスクールバスが動いているが、5 時 20 分頃に国府小学校を出てそれで普通は終わるのだが、その便をもう 1 回東中まで戻らせて、その便で送る。日々乗る便が違うので、その辺りは学校とも日々の確認をしながら、乗り漏

	れがないように対応したい。 2月5日にダイヤ変更が分かっていた。子供達の足が必ずどの路線でも影響すると思う。保護者は来月からバスがないと言われて頭が真っ白になった。今後はそのようなことがないようにお願いします。
沖田委員	
まちづくり推進課長	関係機関・関係者との情報共有が不足していた点は反省している。早めの情報提供をするよう努めたい。
野藤委員長	その他。佐々木委員。
佐々木委員	この件については議会報告会に7、8人来られて、大変なことになったというニュアンスで話をされた。事前に2月に情報があって、内容がはっきりしないので対応までに至らなかったのだと思うが、それなら今後の大改正のたびに可能性として考えられるので、是非石見交通としっかり協議されたい。
まちづくり推進課長	今回の状況は既に石見交通にもご説明させていただいている。2月5日に市が情報をいただいた時点では確かに確定ではなかった。また、路線の便廃止やダイヤ改正については石見交通の判断でできるルールがある。しかしそれで良いということではないと思っているので、2月5日に情報をいただいた時点で全庁的にどういった影響が出るかも含めて調査したいし協議できるよう再度申し入れていきたい。
佐々木委員	14人もの方がこの便を毎日利用しておられて、事業所にとっても多い数だと思う。仮に1人でも心配される子供さんや保護者があってはならないと思う。今後の対応策を要望しておく。
野藤委員長	もう1つ報告事項があるのでお願いします。学校教育課長。
学校教育課長	資料はない。熊の出没に対する学校等の対応について口頭で説明する。昨日の新聞等にも2週間続けて12件目撃があると新聞報道が出ており、該当地区を始め市内全域でご心配いただいている。中には駅近くや通学路等にも出ているらしく、農林振興課では2ヶ所に檻を設置する等の対応をさせていただいている。ゴールデンウィーク開けから東中、一中、二中校区に出没しており、まずは猿・熊メールを各学校に流し、各学校から保護者へメール、注意喚起文書、下府駅には夕方から先生方が街頭に出て登下校時の寄り添いもして、朝は5、6ヶ所手分けして街頭に立ち、付き

	添ってこられたりを、国府小、東中においては小中連携して取り組んでもらっている。熊鈴も配布している学校としていない学校、学年がある。東中校区は直接配布しながらない人につけていただくようなこととしてきた。まず被害に遭わないように児童生徒さんの見守り、見守りをされている方、教職員も被害にあわないことを意識しながら、心配が続く中色んな目で対応していきたい。教育委員会もそういった指示を出しながら連携して安全管理につとめたい。
野藤委員長	その他何か報告事項は。 (「ありません」という声あり) 委員から何かあるか。
佐々木委員	学校統合審議会の答申が先般示された。特に美川地域は四中が廃校になり美川が建て替えという方針が出ている。この方針について今後地域や保護者学校にどのように説明する計画になっているのか。
教育総務課長	今は保護者説明会を実施するにあたり学校と日程調整を始めている。保護者説明会の後、状況も踏まえながら地元説明の日程も調整する。
佐々木委員	まず順番としては先に保護者、その後に地域か。
教育総務課長	現在その予定。
野藤委員長	ではここで全員協議会に提出し説明するものを決定したい。まず執行部の意向を確認したい。総務課長。
総務課長	項目 13 番目「(仮称) 浜田歴史資料館の整備検討について」のみ全員協議会に提出し説明をさせていただきたい。
野藤委員長	委員の方、執行部の意向どおりでよろしいか。
佐々木委員	リハカレの新しい対応策は今までにない良い提案だと思うが、言わなくて良いのか。
野藤委員長	リハカレは注目度が高いので説明された方が良いと思うが。 (「リハカレからいただいた資料なのであまり出したくない」との声あり)
野藤委員長	では執行部案でいきたい。長時間にわたり大変申し訳なかった。執行部はここで退席されても構わない。

《 執行部退室 》

野藤委員長

委員は 3 時まで休憩とする。

[14 時 50 分 休憩]

[15 時 00 分 再開]

2 政策討論会のテーマについて

野藤委員長

会議を再開する。議題 2 について。5 月 13 日に開催した委員会において決定した 3 つのテーマにおいて、各委員に提案していただいている。提案趣旨や課題・問題点、提案内容、予想される効果、必要経費を出してもらっている。各委員に自分の提案について説明を求める。

まず私から。テーマは空き家の利活用。現在空き家バンク等、制度的には浜田市は整っている。しかし空き店舗が増えている。賑わいづくりとの観点からも政策的な支援が必要ではないか、ということで提案させていただいた。課題・問題点としては、全国的に空き家が問題になった時に浜田市も対応している。制度としては平成 21 年から空き家バンク事業をやっており、平成 28 年度からは補助金も交付している関係で、空き家も解体したりリノベーションして利活用されている。それに引き換え各支所の周辺では買い物難民が出て賑わいも減っている。何とか解決したいと思っている。提案内容としては小さな拠点づくりということで、住まいも含めて集約しようという動きもあるが、それらの延長線上で色々提案ができないか検索している。そういうのが出来ればコンパクトな賑わいづくりや人口増に繋がるかは分からないが、住みやすい地域が出来るのではと思っている。コンパクトになればインフラ投資も効率的になったりもするのかなと思う。何をするのか絞り込まないと経費は出せないと思って経費欄は空欄にしている。次、小川副委員長。

小川副委員長

高齢者の移動手段確保に絞って考えてみた。趣旨とすれば高齢者の移動手段を確保するための基本条例を策定する作業がまず必要かと。浜田市第 2 次公共交通再編計画があるが、その中で問題点や課題は明らかになっているものの、解決のためにどの部署

が責任をもって実行主体となって進めていくかは明確になっていない感じがする。全国的に見てもどこの中山間地でも課題となっているのは高齢者の有償運送やウーバーシステム、バス停から自宅までを結ぶグリーンスローモバイリティ等を国の事業としてやられて、そのモデル事業として実施されていると色々あるのだが、浜田市の中で高齢者を中心とした移動手段に絞るのか、それとも中山間地域として絞るのかといった点についても絞って対策が必要かと思っている。今日もドア to ドアと言われているが、そうするとタクシーを利用した輸送形態を見直す必要があるのかなと思う。高齢者の免許返納がクローズアップされているが、運転しないと生活が立ち行かないといった地域事情もある中、75歳以上は適性検査で引っかかると免許が取り上げられる現状もある。今は自主返納したら1回限りの特典制度があるが、それがない場合は持続的支援も必要かと思う。街の中心部からの距離が離れれば離れるほどタクシーの料金が違う。1回で1万以上かかる地域があるとなると、全体を支援できる体制がどうなるか。今はまちづくり推進課が担っていると思うが、地域公共交通をどうしていくかを考える専門担当者を置いてこの施策を進めないと、自治会輸送をしたい所の相談に応じて、まちづくりの位置づけで推進課が一緒になって進め方について協議して実施するのが実態なのだが、対処療法も必要だがそれ以外の声が届かない。限界集落や機能維持が困難な地域も出てきている。自治会輸送されている大麻、羽原、井野のすぐ隣の地域は似たような状況だと思うが、そこでは自治会が中心になってまとまって行動を起こすところまで行っていないような所もある気がする。その辺りを絞って考えていくこともやらないと、方策が出る所と出ない所の不公平感も出るのではないか。金城でも久佐、波佐地域でも集落がかなりあると載っているの、全体的に見ていくためには専門的な人を配置する必要があると思う。それをやりながら先進地事例を取り入れて事業としてやっていけるかどうかも検討していけば。基本になる条例を作りながら併せて施策を進めていくことが浜田市にとっては必要かと思う。

野藤委員長

沖田委員。

沖田委員

僕も高齢者の移動手段確保を挙げさせてもらった。私の場合は自治会輸送の普及という提案。どこの議会報告会に行っても、とにかくバス停まで出るのが大変なのだというのが共通意見で、最終的結論を言ってしまうとやはりタクシーだという声をよく聞く。住民同士が知恵と力を出し合って交通を維持していけるよう考えた。その立ち上げのために一定の仕組みづくりと予算を出してまちづくり組織単位くらいで地域交通をやっていく。車も貸与でなく自家用車を使用してやっていけたら。費用はまちづくりから費用弁償の形で報酬を受け取る。予想効果は交通空白地の解消やより良い地域交通。自家用車を使用して地域でとなると色んな問題点も出てくるのかと思うが、行政がマニュアル的な物を作っていけたらと思う。予算的にはまちづくり総合交付金の課題解決事業 50 万円を増額してできないかということで、今回こういう形で提案させていただいた。

野藤委員長

西川委員。

西川委員

前回大きなことを言ったが内容が乏しいので2つ書かせてもらった。1 つは空き家の利活用で、市街地の空き家を県立大学の学生向けシェアハウスに改修して運営する。課題は市街地に空き家が増えておりまちが寂れて治安悪化も懸念されている。それとは別に、浜田市内の大学生向けアパートは他市に比べて家賃が高く、大学生の生活がかなり圧迫されている。提案内容は市街地の空き家をシェアハウスに改修して学生に貸し出す。もし建物的に可能なら建物内にコミュニティスペースを設けて地域住民との交流を促進して、まちに若者が住んで住民と交流する賑わい創出が出来れば良いかと。予想される効果は、まちの空き家に学生が住むことで地域住民との交流が生まれ賑わいが創出される、学生が安価な家賃で余ったお金を他に使えるので地域経済にも好影響を与えるのではないかと思う。費用は住宅の改修 1 件 300 万円から 500 万円くらいかと思っている。

もう 1 つは地域人材育成。趣旨は定年退職した世代へ教育や研修制度を創設して、定年後に市民活動や社会活動への参加を促すことによって地域のまちづくり人材が確保できるのではないかと思う。課題は、高齢化によって地域のまちづくりを担うリーダー

一的人材が不足している。定年退職後の公務員やサラリーマンに対し市民活動や社会活動についての研修プログラムを提供して既存の活動団体の紹介や斡旋、または新規のNPO法人設立援助をすることによって、定年退職したての人材を切れ目なく社会貢献に活用したらどうかと思う。予想される効果は、定年後の人材を市民活動・社会活動に誘導することで地域のまちづくり人材を確保できる。費用等は研修プログラムを開発したり講師や研修場所等に費用がかかる。また、市民活動センターの設立等もゆくゆくは考えて言ったらどうかと思う。

野藤委員長

永見委員。

永見委員

空き家の利活用を選択した。浜田の市街地の空き店舗やシャッターを閉めた店舗が目立つ、市街地の賑わい・活性化が課題になっているのではないかと。居住地域・中山間地域においても空き家が多く、防犯や景観等への悪影響がますます増えるのではと思っている。空き家が進むとなれば人口減少もさらに進み、世帯数減少も進み、空き家の増加が予測される。高齢化がさらに進み高齢者の方の死亡や福祉施設への入居によって空き家が増えているので、その辺りが課題ではないかと思っている。取り組みについては空き店舗や空き家を活用して地域の人たちの情報交換を行う交流の場としての地域サロンやものづくりの拠点にしたらどうか。空き家流通促進に取り組み、U・Iターンの定住対策にも繋がるのではないかと考えている。市街地、農村、中山間地域集落のタイプ別空き家の発生を提唱して若者の住宅に対するニーズを把握しながら流通の活性化に取り組んだらどうか。また、市街地の空き家・空き店舗を事務所や店舗として活用目的で回収する場合の助成等も検討したらどうかと考える。効果は人口減少対策、市街地・中山間地域の活性化、防災・防犯・景観の維持に繋がるのではないかと考えた。

野藤委員長

次に佐々木委員。

佐々木委員

高齢者の移動手段の確保を選んだ。買い物や通院等交通弱者である高齢者の移動手段確保が喫緊の課題であり、加えて高齢者の運転による大きな事故も発生している。極力経費負担が少なく、安全安心な高齢者の移動手段を早急に構築すべきである。課題・

問題点としては、浜田市の主な公共交通機関は民間路線バスや市生活路線バス、市乗り合いタクシー、民間タクシー等あるが、各路線バスの利用は中山間地域では利用しにくい、範囲は限られているが市乗り合いタクシーや費用負担は少し大きくなるが民間タクシーのドア to ドア方式による交通機関が高齢者には適していると思われる。費用負担が少なく、多くの高齢者が利用しやすいドア to ドアの仕組みが広く導入できないものか。一部地域で取り組まれている自治会輸送や有償運送は、運営の難しさやドライバー確保、事故対応の問題等が想定されるが、住民の意識改革により広げることも可能と思われる。提案内容は民間路線バスや民間タクシーが参入した乗り合いタクシー・バスに取り組むこと。補助金削減による新たな仕組みづくりができないか。デマンドバス等市単独でやっているものを民間のバス・タクシー会社も巻き込んでやるということ。現在の補助金がここ 4、5 年で約 5 千万円くらい増えたと聞いているし、3 億円近い経費がここに費やされているので、それを少なくしながらより広く利用しやすいものにしていくと言う意味。また民間タクシーを活用した乗り合いタクシーができないか。自治会輸送や有償運送は住民に周知されておらず、住民の意識改革や仲の良い地域づくりを行うことにより広げることも可能ではないか、まちづくり交付金を活用する。この自治会輸送や有償運送は、大前提として住民の仲が良くないと上手くいかない。こういったまちづくりがまず大前提になるということから書いている。予想効果としては補助金削減、住民自治の意識が醸成されまちづくりにも生かされるのではないか。公共交通に住民が取り組むことでその他のまちづくりにも反映される。

野藤委員長

次は、道下委員。

道下委員

高齢者の移動手段の確保を選んだ。私は自治会輸送活動支援事業の取り組みを広げる、推進すべきと思っている。効果として地域コミュニティの活性化が期待され、地域の存続にも大いに寄与できると考えている。ほとんど佐々木委員と沖田委員と同じ。

野藤委員長

それでは最後に西田委員。

西田委員

地域の人材育成。今はどこに行っても問題だらけで、少子高齢

化による人材不足であって。人口減少に歯止めをかけるのは非常に困難だが、しかし地域の中で魅力的人材が増えていくのは色んな意味で有効だと思っている。課題問題は、人材不足によって地域住民の意識の中に、諦め感やネガティブ感が漂うことが一番問題だと思っている。色んなハンディを逆手に取るような人材を。提案内容としては、外部から色んな人材を積極的に登用する。地域おこし協力隊もあるし、先般視察した宮崎県日南市、熊本県もあった。市としてこれはという人材がおられたら募集をかけるなり引っ張ってくるなりして、核となる人を連れて来る。良い人材がいると地域にも良い効果がもたらされ地域住民のモチベーションが上がる等、諸々が考えられる。地域の現状を共通認識として地域住民で共有しながら、組織の枠を取り払った交流を推進することも必要だと思う。一緒になって目標を定めた協働の研修や体験事業を実施することも重要。予想効果だが、色んな共通認識を持ったリーダーが複数誕生することで、地域の核ができ、様々な波及効果を生み出す。それがやがて地域の活力と魅力に変わっていくと思う。地域住民1人1人が「諦めない」意識に変わることが、一番地域を元気にすると思う。予算だが、ある程度一定期間はこういう事業が必要だと思う。一定額を地域人材育成枠として取っていただきたい。

野藤委員長

各々の提案を説明いただいた。3つのテーマがあるが、1つに絞りたいと思っている。どのようにしようか。

西田委員

数から言えば4件、3件、3件なのだが、私は人材育成は全てに共通して大事なことだと思っている。しかしこの3つのテーマどれも素晴らしいテーマだと思っている。

野藤委員長

提案の数から言えば高齢者の移動手段の確保が多いのだが、皆さんの提案をもとにこれに色を付けるのは可能ではないかと。メインを高齢者の移動手段の確保にして、その中にハブ機能を持った空き家利活用ができたり、人材確保ができたり。そういう形で柱を1つにして屋根を作るようにしたらどうかと思うがいかがか。

沖田委員

政策提言につなげるなら、一緒にするのは難しいのではないか。

野藤委員長

例えの話。福祉環境委員会は色々修正したり皆でたたいているそう。当委員会も皆の知恵を集めて1つのものにしていかない

	といけない。佐々木委員。
佐々木委員	委員長が言われたような考え方もあるのかと感じた。人材でも市職員OBに退職後も地域貢献して欲しい、人材育成しながら發揮してもらうことも大事。今日はこれを皆でしっかり読み込んで、委員長提案のような繋がりができないかどうかを考えるのは駄目か。
野藤委員長	ここで一気に形にするのは難しいと思っている。皆の意見はどうか。
佐々木委員	福祉は正副委員長にお願いしているようだが大変なので、なるべく分担して皆で作るために資料の腹入れをする時間が必要かなと思う。
野藤委員長	永見委員。
永見委員	皆さんご意見を色々言われたが、関連性があると思うのでまとめていくのも1つの案かと思う。
野藤委員長	西川委員はいかが。
西川委員	3つの中で多かったのが交通手段で、もちろん交通手段は重要問題だし市も公共交通見直しをしているので、思いが多い方が話が進むのかと思う。しかし、中山間地特別委員会でも同様なテーマがあるので、この委員会を出すなら提言というより政策提言までいけたら良いと思う。
野藤委員長	移動手段の確保を柱に読み込んでもらって、新たな見解を持って次回にテーマを1つにしたい。中山間地があると言われたが、市内の中も循環交通系など市内の移動手段も考えられる。
	道下委員。
道下委員	7月中頃が目途となるとどのようなスケジュールで進めるのか。公共交通、高齢者の移動手段1本に絞ってこれだけの意見が出てきて、私も高齢者の移動手段を選んだが、そうでない委員も移動手段に絞って考えた場合のアイデアもあるだろう。次回はどう進めて、最終的にはいつ頃まとめるかといったところを示してもらいたい。
野藤委員長	より具体的にしていく作業。福祉で言えば条例みたいな形。財源、趣旨、課題等をより具体的に書いて提案していく作業になる。まだ1、2回ではとても無理。今日の皆さんのご意見をまとめる

なら、高齢者移動手段、中山間地・市街地を問わず様々なシーンが想定されるが、より具体化したものを次回に提案して欲しい。目新しい意見も欲しい。意見を戦わせながら積み上げて行ければと思う。佐々木委員。

佐々木委員

そんなイメージで良いと思うが、今回三隅の報告会では三隅町井野の有償運送の中心者が来られて、集った三隅地域の方が感心する話をされていた。そこには色んな問題があり、運転者が高齢者で集まらない、事故の可能性も高い、その場合の対応はどうなっていくのか。また何より大変なのは事務局で、それなりの使命感を持っていないと。他の地域でも自治会輸送は話題に上るものの、運営する側の負担が大きくやり手がないのと運転者の確保が難しく断念された地域も複数ある。現場を聞きながら、これをするには何が問題でどういったことをクリアすれば良いのか調査を進め、執行部ができないことを議員としてやれば良いと思う。

野藤委員長

それは現地調査か担当課との意見交換か。現地へ行くなら相手方の都合も当然ある。現状の課題がある。調整してみる。

篠原次長

現地に行かれるのも大事だが、今後のスケジュールを前回のフォルダに入れており、説明もさせていただいた。具体的な部分を決めるのはもう少し後でも大丈夫だと思う。その前に、政策討論会幹事会に総務文教委員会としてどういったテーマのものを出すか、それはどういう理由でだされるのかまでを7月くらいまでに決めていただき、それをもとに政策討論会幹事会でどれを選ぶか、どれもやろうという話になるかもしれないが、それが終わった後に実際の政策討論会を8月下旬あたりに開催する予定なので、そこへ向けて皆さんの前でプレゼンできるほどの詳しいものを作っていたきたい。

野藤委員長

フローチャートの中に各種団体との意見交換会と調査研究と先進地視察とある。佐々木委員。

佐々木委員

先ほど言ったのは有償運送と自治会輸送という1つの事業についてだけなので、それ以外で運送に関わっておられるタクシー会社や市生活路線バス会社等調査先はまだたくさんある。一度にはできないので重ねていかないと、より実態に則した政策提案になりにくいのではないかな。

野藤委員長
小川副委員長

小川副委員長。

結局、公共交通の部分を考えて中心がどこになるのか不明確。計画を読むだけでもすごい量がある。これを読む中でどこに焦点を絞ればいいか、今日おられる委員さんも焦点がバラバラだと思う。実際に公共交通に関わっておられる関係者や利用者の声は、「良いとは思いますが自分らがやれと言われたら厳しい」というものが多い。本来なら活性化協議会があって行政側もタクシー、バス、利用者代表と話しているものの、それはあくまで計画を作るための協議会になっている。計画を作った段階で各種データを集めて、ここの空白地を解消しなければいけないとなった時にどこがどう動くかは、計画作成の段階で止まっている気がする。推進していくための道筋を明らかにすることが必要だと思った。利用者の意見を把握する手段がないと、移動手段を施策に引き上げていくのも難しい。調査活動をまずどこからするか。

野藤委員長

より具体的に提案内容を絞っていくことになろうかと思う。どの辺に焦点を絞るか。西田委員。

西田委員

浜田市はこれだけ面積が広いので、中山間地もあれば市街地もある。一口で高齢者の移動手段と言ってもやり方が1つではできない。以前視察した安曇野市は盆地になっていて人口は丁度浜田の市街地のよう密集しているから、社会福祉協議会が市から運営委託されて、更に市内タクシー会社に委託している。タクシー会社も社協もメリットがある。利用者もメリットがある。そうすることで市街地は割と運営しやすい。市街地は市街地のやり方があり、中山間地には中山間地の自治会輸送なりまちづくり委員会がかかわって新しい浜田方式をやるか、それとも有償運送か、入り込んでいくと色々これから方向性は出てくると思う。

野藤委員長

それは6月定例会で。言われたようにテーマは一応決めたということで、これを読み込んでいただいて、より具体的なものにしていく提案があれば。ただ日程的に日にちを決めないといけない。次回は。

(以下、日程調整のための自由討議)

野藤委員長

6月3日の全協終了後にどこかの委員会室を借りて行いたい。その際には高齢者の移動手段について、出された方はより具体的

小川副委員長

なものを出されてもいいし、別のテーマを出された方は新たな提案をしていただきたい。

結局今日の話でも石見交通減便の話があった。今の法律上で言うバス会社の方が1ヶ月前に「この路線止める」と言えばそれでおしまい。その後の対策をどうするかとなった時、たまたま中学生が対象者だから義務教育の間は教育委員会が定期代を払ったりしている関係で、対応してもらっているけど。今回のダイヤ改正で他にも影響が出ているはず。そういう時は誰も対策を打ってくれない。そうするとどこまでが個人の責任で、どこからが自治体として支援せねばいけないのかを含めて検討した方が良いと感じる。

野藤委員長

有償・無償運送の対象者は決まっているのか。登録者か。その辺も調べたい。小川副委員長の発言も念頭に置いて検討していきたいと思う。

その他あるか。道下委員。

道下委員

松江市教育委員会が行っている寺子屋事業について、委員会で視察したらどうかと思うが。

野藤委員長

具体的に時間や場所や相手方、内容が分からないといけいないのだが。

道下委員

それはネットで調べれば出てくる。

野藤委員長

結局どういうことで申し込んだのか。議員として申し込んだのか。

道下委員

行きたいと思って事務局にお願いをしている。

野藤委員長

議会事務局を通じて申し込んだのか。

篠原次長

今のお話は元々、道下委員から松江市教がやっている寺子屋事業について議員として視察に行きたいので調整して欲しいということで、松江市議会事務局に昨日連絡させてもらったところ、最初は、来週のどこかで受けていただけるか。その次の週4、5、6、7辺りなら空いているので検討してみて欲しいとお返事をいただいた。このような話になることは想定しておらず、そういう話ならこれからになる。

野藤委員長

どういう形なのかわけが分からない。委員会で行くなら事前に資料をいただいて読み込んでおいて言ってみたら質問もあろう。

でないとただ行ってみるだけではやれない。

他にないようなら委員会を閉じたいと思う。以上で総務文教委員会を終了する。

(閉 議 16 時 02 分)

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 野藤 薫 ⑩